

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和2年度第8回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和3年2月24日（水）16:00～17:30
- 場 所：WEB会議（事務局：こども病院2階 市民病院4階）
- 出席者：原理事長（議長）、桑野副理事長、久保理事、石原理事、神坂理事、野中理事
久留監事、柳澤監事

□ 議 事

【議案審議】

1 議案第12号 組織規程の一部改正について

＜概要＞

組織規程の一部改正について、事務局より説明を行い、原案どおり可決された。

（改正内容）

市民病院においては、患者を適切な診療科につなぐ役割を総合診療部が担ってきたが、今後は内科においてその役割を担うこととし、総合診療部は組織上廃止するもの。

＜主な意見等＞

- 総合診療専門医が制度化されたことで、組織名称から専門医がいると誤解され、市民病院で扱っていない呼吸器内科等の患者が外部から紹介されて混乱が生じており、対応するもの。
- 診療科がわからずに来院した患者については、外来看護師が患者サポート窓口等で対応しており問題はない。
- こども病院にも総合診療科があるが、専門医制度の影響は特段なく、組織は継続する。

【報告事項】

1 令和3年度 年度計画（案）について

＜概要＞

令和3年度の年度計画（案）について、事務局より説明を行った。

（主な取り組み）

≪医療サービス≫

【良質な医療の実践】

- （こども病院）医師業務のタスクシフティング、機器・人員の集約化及び診断技術の教育を目的としたエコーセンターの設置。
- （市民病院）入院を要する重症度の高い救急患者の受入れを円滑に行うための救急受入体制や病床の運用の見直し。

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

- （こども病院）オープンカンファレンスのWEB開催など地域の医療従事者への教育研修、院内における退院支援や多職種を対象とした研修会等の実施。
- （市民病院）地域の医療機関に対するICTを活用した情報配信や積極的な連携・支援、緊急時の円滑な入院受入れ、認定看護師による退院前後の患者の訪問指導等。

【災害時等の迅速かつ的確な対応】

- （こども病院）緊急時参集システムを活用した非常招集訓練及び大規模災害を想定した患者受入訓練の実施や防災マニュアル等の定期的な見直し、災害備蓄品等の点検の徹底。
- （市民病院）新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、感染拡大時の対応やワクチン接種などにおける市や他の医療機関等との積極的な協力・連携。

《患者サービス》

【患者サービスの向上】

- （こども病院）ICTを活用した外来予約システムの機能拡大等。
- （市民病院）高齢者や単身者の入院生活のサポートとして、衣類・タオル類等のレンタルサービス導入の検討。

【情報発信】

- （こども病院）ホームページのコンテンツの工夫やSNSの活用。
- （市民病院）ホームページの全面リニューアルや医療機関向け広報ツールの作成。

《医療の質の向上》

【病院スタッフの計画的な確保と教育・研修】

- 看護師のオンライン就職説明会等の実施、WEBの活用等による全職員を対象とした医療の質向上に資する研修の実施。

【信頼される医療の実践】

- 新型コロナウイルス感染症への院内感染防止対策の徹底や医療安全の教育・研修の実施。

《働きがいのある職場環境づくり》

- 新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえたメンタルサポートの環境づくり、ハラスメント防止に向けた研修会の実施。

《法令遵守と公平性・透明性の確保》

- 管理監督者を対象としたコンプライアンス研修や全職員を対象とした情報セキュリティ研修の実施。

《収支改善》

【収益確保】

- 各種補助金の活用や、市民病院における難易度の高い手術症例確保のための「ICU・救急プロジェクトチーム（仮称）」の設置。

【費用削減】

- ICTの活用による業務の効率化、価格交渉等による診療材料費の更なる縮減。

《福岡市立こども病院における医療機能の充実》

- （こども病院）電子カルテシステムの新システムへの円滑な移行。

《福岡市民病院における経営改善の推進》

- （市民病院）新型コロナウイルス感染症対策における市の中核的な役割を果たすとともに、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら経営の効率化を推進。

＜主な意見等＞

- こども病院の検査部のエコーセンター設置について、医師業務のタスクシフティング等を目的としており、他の病院も見習う取り組みであるので是非進めてほしい。
- 市民病院は年度当初は紹介患者数もかなり減少したが、現在は患者が戻り、コロナ以外の通常診療はほぼ満床になっている。手術件数は時期的に波があり、年間で約10%減少している。令和3年度もコロナの重点医療機関の指定や一定の空床確保が当面続くと見込んでいるが、診療報酬の特例加算分は未定につき入院単価への影響を反映していない。
- 経営への影響が大きいコロナ対策にしっかり取り組んでおり、各病院の社会的な貢献度も

併せて説明できるようにしておくことが重要である。

2 令和3年度 予算（案）について

<概要>

令和3年度の予算（案）について、事務局より説明を行った。

<主な意見等>

- こども病院については、緊急事態宣言になると他県からの患者が減少して影響が大きいが見通すのは難しく、緊急事態宣言はないものと仮定して令和3年度予算を作成している。
- 市民病院については、令和3年度もコロナの重点医療機関として引き続き空床確保を行うことや、手術件数を令和2年度と同程度を見込んでいることなどから、医業収益は厳しい状況が続くものと考えている。また、空床確保の補助金も規模が小さくなる見込みである。
- 市民病院の収支については、コロナの影響や病床数の規模、老朽化など様々な課題はあるが、令和3年度も医業収益の改善と、給与費や材料費等の医業費用の適正化等を図っていく。第4期中期計画の最終年度の令和6年度に黒字化する目標を掲げている。
- 市民病院の給与費については、令和3年度のコロナ対応が令和2年度よりは多少は落ち着き、手当の支給が減少すると見込んでいる。